

子供たちと仕掛学

福岡教育大学附属福岡小学校
社会科部 大島浩一

【生活創造】 1年生から6年生の異年齢チームを構成し、よりよい学校のために活動する学校自治である。
この「仕掛け」を作製したのは、安全チームの子供たちである。

【仕掛けの目的】

学校生活の中で、廊下や階段を走る低学年児童が多い、階段を広がって歩くということに気付いた。始めは、安全チームの当番活動として、みんなで安全パトロール（廊下を歩きながら走っている人を注意する）を行ったり、全校放送（給食時間に安全にちなんだクイズをする）で呼び掛けたりしたが、なかなか廊下を走る児童が減らなかった。そこで、「仕掛け」を設置することで、全校児童が安全に過ごせるようにした。

【結果】

低学年児童139名を対象としたアンケートでは、廊下や階段を歩行できるようになった児童は、**81%**（113/139人）であった。また、現在足跡シールを撤去しているが、廊下や階段歩行等、学校内の安全を意識できるようになった児童は、**70%**（98/139人）であった。



【考察】

松村教授にオンラインでアドバイスをいただいたり、全校児童で「仕掛け」の成果と課題について話し合ったりしたことで、子供たちが「**自分たちの手でよりよい学校生活は作ることができる**」という意識が生まれた。

来年度の活動にも生かしていきたい。

資料① 足跡シールを作製する子供たち

資料② 階段に貼られた足跡シール

資料③ 改善された「仕掛け」